

タネから繋がる自然とワタシ -命の循環を学ぶ食農教育-

From Seed to You, Connecting with Nature -Hands-On Food and Agricultural Education to Learn the Interconnectedness of Life-

グループ名：ミライノタネ
御法川 海, 東 香峯子, 石井 萌楓, 増田 萌々香, 高 越
指導教員 前田 幸男

創価大学 法学部法律学科 前田幸男ゼミ

人間にとって必要不可欠な「食」を、特に八王子産の特産である野菜・果物を使用し栽培、生きた土に触れることで、子ども達の自然への感受性とその豊かさを養う八王子市全体での食農教育を提案する。

キーワード：食農、タネと土、地産地消、自然への感受性、命の循環

目的と現状分析

本提案は、家庭でもできる小規模の食農教育の機会担保により、人間にとって身近な自然である野菜や果物と触れ合い、自己と作物との成長を通して、子どもと自然との距離を近づけ、精神的自然ないし自然に対する理性を超えた感覚的神秘的な物事への感受性であるセンス・オブ・ワンダー(以下、TSOW とする。)を磨くことを目的としている。

この目的に至るまでの主な現状分析として以下3点が挙げられる。

1. 日本自然保護協会によると、今を生きる子ども達の自然から発するシグナルに反応し、感受できる TSOW の力が劣っているという。その力を養うためには、子どもの脳の感受性が高いとされる 10 歳頃までに数多く自然に触れることが重要であり、その自然体験とは土に触れることであるという。故に、子ども達の TSOW を引き出すには、上記の年齢の間にどれだけ土を中心とした自然に触れられるかが鍵であるといえる。

2. 八王子市はスプロール現象によって市内の農用地が減少傾向にあるといえる。つまり、子ども達が触れるべき土が少なくなっているといえる。また八王子市の「八王子市の農林業と農業委員会の概要」によると、農業体験の機会などで土に触れる機会があることがわかる。しかし様々な事情から、

八王子市内の一部地域での開催かつ、人数制限などが設けられている。故に八王子市内全域で、そして希望者全てに行き渡るような土との触れ合いを中心とした「農」の機会の担保が必要であるように思える。

3. 昨今の社会全般の問題として「食」に対する習慣や意識の希薄化が挙げられる。さらに近年の物価高によって、食べ物の値段が高騰していることから、各家庭での食費も必然的に上がり、「食」に対する習慣や意識の希薄化が加速してしまう。つまり八王子市の食育重視の精神が、特に家庭内で実行されづらくなってきているといえる。

以上のような問題意識に基づき、子ども達の TSOW を磨くための食農教育の機会の担保が八王子市全体に求められているといえる。

提案内容

八王子市の小学生が、野菜・果物の栽培から調理までを一貫して行い、自然界の循環と命の一連の流れを実践的に学べる八王子市食育コンテスト「未来のタネはワタシだ(仮名)」を提案する。提案は大きく以下の三つに分けて構成される。

1) 観察・発見・驚きの連続! 家庭での実践的な農業体験
参加者に八王子の特産を中心とした野菜・果物の

タネと栽培キット、栽培用のガイドブックを配布する。児童は栽培を行い、日々の野菜の成長と学びを日記に記載、収穫を目指す。配布された作物のタネを最後まで育てきたことを示すことで、景品などをプレゼントする予定。

2) オリジナルレシピと料理の創作

収穫した野菜を使用し、年間テーマに沿って、オリジナルレシピの考案、調理を行う。例えばレシピの題名として「廃棄物を最小限に！ワタシのゼロウェイストレシピ」などが挙げられる。生徒は、野菜の栽培日記、レシピの内容や工夫点、写真/動画を審査委員会に提出する。

3) 審査と表彰：八王子市 地域への貢献

審査委員会で、部門別に審査を行う。最優秀賞に選ばれた生徒のレシピを八王子市の学校で給食として配膳する。これにより、参加者の八王子市の特産品を使用した成果が食育を通して地域に還元される。

応募方法： 八王子市のホームページ/八王子市内の学校への告知

八王子市の特産： 野菜・果物の種類：

室内栽培： 小松菜、いちご、きゅうり、ほうれん草、トマト、ブルーベリー、ナス

室外栽培： ミニトマト、豆苗、リーフレタス、ラディッシュ

開催スケジュール： 11-12月 応募者募集、1-2月 タネ・資材配布の準備、3月 タネ・資材配布の配布、4月-11月 野菜・果物の栽培とレシピ・料理開発、12月結果発表 ならびに表彰式

提案の効果

本提案を通じて、以下の効果が期待される。

① 実践的な食育の実現が期待される。小学生が、栽培を通して普段口に入っている食べ物が種から成長し、実り、収穫し、また種となるという連鎖を身近に学ぶことができる。また、その後日々口に入っている食べ物の産地に興味を持ち、地産地消の意識を育むことを期待する。

② 食と社会の繋がりを学ぶことができる。収穫した野菜をただ口にするのではなく、例えば食品口

スなどの社会問題と結び付けたレシピを考える事で、思考力や社会意識を育むことができる。

③ TSOW を育むことができる。野菜を簡単に買うことができる社会である一方、栽培を通して植物を育てることの難しさや実った時の喜びも学ぶことができるので、自然と深くつながるための一歩となる。

④自然保護に対する興味を育むことができる。小学校で学ぶ地球温暖化や理科で行う植物実験などに対して、机の上だけで学ぶだけでなく、日常生活と繋げて考えられるようになる。

⑤ 八王子や地域社会との繋がりを育み、食育を通して地域貢献を行う事が出来る。

⑥ ①から⑤を通して、八王子の都市像実現のための基本構想6「一人ひとりが育てる、人と自然が豊かにつながるまち」の実現につながる。

おわりに

以上より、私たちは児童教育における TSOW 醸成の重要性に基づき、食農体験、食育コンテスト「未来のタネはワタシだ(仮名)」を提案した。自然と自身の繋がりを最も身近に感じることができる食物の成長過程に触れることは、児童の食と命の恵みに関する生きた学びとなり、同時に保護者や地域社会の環境意識基盤を築いていくことにも繋がる。本提案により人と街、自然が共存する街として八王子は他都市のモデルとなっていくのではないかと。

参考文献

日本自然保護協会 (2020) 「八王子市の農林業と農業委員会の概要」

<https://www.nacsj.or.jp/2020/07/20815/>

八王子市役所 (2024) 「八王子市の農林業と農業委員会の概要」

<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/kurashi/sangyo/004/001/001/p006545.html>